

1. まえがき

明治初期、政府は日本の近代化を推進するため、教育・鉄道・灯台・陸海軍など、あらゆる分野に数多くの外国人を雇い入れた。これに関しては、梅溪¹⁾の広範な研究や(社)土木学会²⁾の土木分野での古典的な調査研究がある。一方、渡辺³⁾は東京大学などの米国人科学教師、また北⁴⁾は工部大学校の英国人教師について、各々、米および英国で文献を発掘・調査し成果をあげた。本論では、明治初期から中期の工部大学校、東京大学および帝国大学の工学系部門に着目し、外国人教師から日本人教授へ移行する過程を調査した。

2. 調査方法

表-1に調査に使用した文献を示す。太字の「工部省沿革報告」および「東京帝国大学五十年史」は、各々、工学寮・工部大学校(以下“工学寮・工部大”と略記)および、東京開成学校・東京大学(以下“開成・東大”と略記)・帝国大学の全容をカバーする代表的文献である。前者は工部省と財政面で密接だった大蔵省が工部省廃止後にまとめたもの、後者は東京帝国大学が東京大学設立50年を記念し編纂したものである。その他の文献はいずれも当時1年毎に刊行されたものである。本論では太字の文献をベースにしつつ、その他も適宜参考にした。対象期間は、工学系外国人教師の着任から日本人教授への移行までをカバーするよう、明治5(1872)～26年までとした。

3. 調査結果および考察

(1)工学系教師・教授数の変遷

1)お雇い外国人教師数

図-1に工学系教師・教授数の年毎の変動を示す。細破線は、開成・東大の外国人数である。ほぼ全期間を通じて4人程度で安定している。太破線は、工学寮・工部大を加えた全外国人数である。明治6年の9人から始まり、9～13年(5年間)のピーク安定期には16人に増加している。しかし14年から減少に転じ、一時的な小康状態を経て、19年の帝国大学設立時に再び減少して3人になり、以後はそのまま低位安定している。なお、工学寮・工部大の外国人数は太破線と細破線の差なので、太破線と同じ傾向にあると言える。

2)日本人教授数の外国人教師数との比較

太実線で示された全日本人数を太破線の全外国人数と比較する。外国人のピーク安定期が終わった14年から、その減少を補うように日本人教授が誕生、増加している。18年に両者同数となり、翌19年、帝国大学設立時には日本人数が一挙に外国人数の約3倍になっている。さらに、外国人のピーク安定期が終わって8年後の21年には、約4倍に相当する16人に増加し、以後そのままピーク安定状態が継続している。

表-1 調 査 文 献

(注)Mは明治、Sは昭和を示す。

区 分	文 献				
	編著者	名 称	対象時期	編纂時期	所 蔵
工 学 寮 ・ 工 部 大 学 校	大 蔵 省	工 部 省 沿 革 報 告	M1～18	M21.8	(社)土木学会
	工 学 寮	工 学 寮 学 科 差 詰 規 則	M7～8	毎年	国立公文書館
	工 部 大 学 校	工 部 大 学 校 学 科 差 詰 規 則	M10～11, 14～18	“	“
東京開成学校・ 東京大学・ 帝 国 大 学	東京帝国大学	東京帝国大学五十年史〔上・下冊〕	M1～S1	S7.11	(社)土木学会
	東京開成学校	東京開成学校年報〔第1～3〕	M7～8	毎年	国立公文書館
	東 京 大 学	東京大学三十三部年報〔第5～8〕	M9～12	“	“
	“	東京大学年報〔第1～3〕	M13～15	“	“
	文 部 省	開 成 大 学 教 員 録	M13～20	“	“
	帝 国 大 学	帝 国 大 学 一 覧	M19～25	“	“

キーワード：明治、お雇い外国人、技術教育、工部大学校、東京大学

連絡先：〒302-0121 茨城県北相馬郡守谷町みずき野6-10-10

(2) 土木工学教師・教授数

表-2 に土木工学教師・教授の個人毎在籍期間を示す。全体的傾向を知るために年毎の人数変動に着目する。外国人数は、工学寮・工部大でピーク安定期(12~14年, 3人)を有するが、開成・東大では変動がない(1人)。この点は工学系教師の場合(図-1)と同じである。一方、日本人数は、工学寮・工部大、開成・東大とも全期間ゼロであるが、この点は工学系教師の場合と異なっている。その後の帝国大学では、新分野の衛生工学を除き外国人はゼロになり、代わって日本人教授が誕生、増加している。

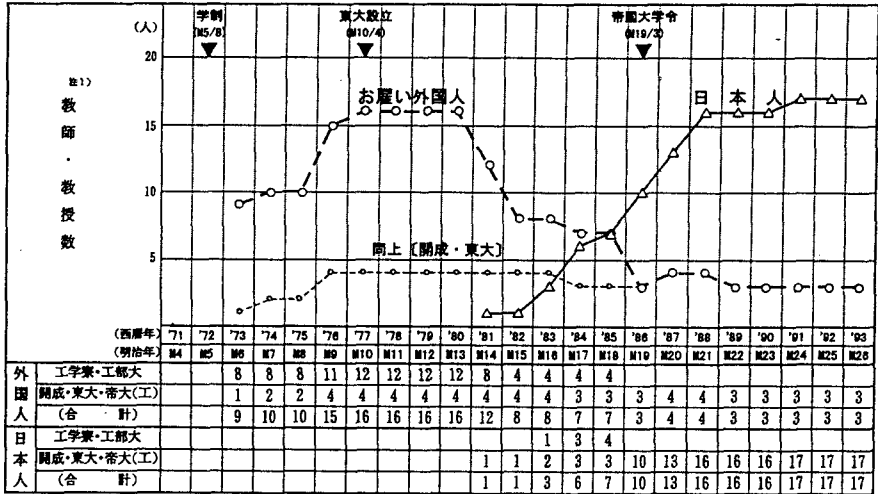
4. ま と め

- ①工学系お雇い外国人教師数は明治10年前後にピークを迎えたが、その後は次第に減少した。
- ②外国人教師数の減少を補うように日本人教授が誕生、増加した。
- ③明治19年の帝国大学設立は、外国人教師減少および日本人教授増加に決定的な役割を果たした。
- ④土木部門では、19年を境に一挙に外国人教師から日本人教授に移行した。
- ⑤工学系全体でも、

2年後の21年、外国人ピーク終了から約10年後には、日本人教授のピーク安定期(外国人教師の低位安定期)を迎えた。

5. 参考文献

- 1) 梅溪昇:お雇い外国人①概説, 鹿島研究所出版会, 1968.
- 2) (社)土木学会:明治以後本邦土木と外人, 昭和17年.
- 3) 渡辺正雄:お雇い米国人科学教師, 講談社, 昭和51年.
- 4) 北政巳:国際日本を拓いた人々ー日本とスコットランドの絆ー, 同文館出版, 昭和59年.



注1) 工学寮・工部大: 実学および小学以下の附属者を除くが、助教授を含む
開成・東大: 土木、建築、応用科学および機械の附属者

図-1. お雇い外国人から日本人へ
...工学系教師・教授数の変遷...

表-2. 土木工学教師・教授

		(西暦年)	'71	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93			
		(明治年)	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56			
			工学寮 (1858/4) 工部大学校 (1871/4) 帝国大学 (1877/3) 帝国大学 (工科大学) (1877/3)																									
工学寮・工部大	R. Dyer	英	4/2 (倉庫工務) 8/7																									
	T. Alexander	#	7/28 7/23																									
	J. Perry	#	9/2 7/21																									
	A. W. Thomson	#	8/4 8/26																									
	(合計)			1	1	1	2	2	2	3	3	3	1	1	1	1	1	1										
開成・東大	A. W. Unthank	米	3/8																									
	J. R. Wason	#	10/21 7/22																									
	W. S. Chaplin	#	7/13 7/15																									
	J. A. L. Waddell	加	8/7 4/23																									
帝大(工)	W. K. Burton	英	8/28 (厚生工務現場)																									
	古市 公成	日	1 (卒業事務)																									
	白石 重信	#	7/25 10/4																									
	田辺 朝郎	#	10/25																									
	清水 漢	#	3/1 7/1																									